

様式第7号の2（第8条関係）

2024年 11月 20日

（あて先）三鷹市議会議長

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 日本共産党三鷹市議会議員団 代表者名 大城 美幸

1 視察年月日	2024 年11月8日（金） <u>午前</u> ・午後 10時00分 ～ <u>午前</u> ・午後 11時30分
2 視察者氏名	<u>大城美幸</u> <u>栗原けんじ</u> <u>紫野あすか</u> <u>前田 まい</u> 計 4 人
3 視察先	千 葉 都・道・府・ <u>県</u> 船 橋 <u>市</u> ・町・村
4 視察項目	(1)「ヤングケアラー支援事業」について
5 視察結果等	初めに、副議長より歓迎のあいさつをいただきました。 健康福祉局こども家庭部長をはじめ、こども家庭支援課長、同課長補佐、こども家庭支援課こども支援係長が対応してくださいました。 事前にお渡しした質問項目を含め、ヤングケアラー実態調査の報告と市民への周知方法、支援事業の予算や他の関係部署や団体等との連携について伺いました。また、最後にサービスを利用した当事者の声もお聞きしました。 船橋市では、令和4年5月6日～27日にかけて船橋市子どもの生活実態に関するアンケート調査を実施し、ヤングケアラーの実態把握を行いました。 調査の結果、○「世話をしている家族がいる」と答えた児童が回答者の4.8%いることが明らかとなりました。（小学生6.7%、中学生2.9%、高校生相当2.2%） ○「自分がヤングケアラーだと思う」と答えた児童が回答者の1.6%（小学生2.0%、中学生1.1%、高校生相当1.4%）、○世話をし



ていることによる生活への影響では「自分の時間が取れない」の割合が11.8%と最も高く「睡眠が十分にとれない」が11.1%と続いていました。高校生相当では「自分の時間が取れない」の割合が17.9%と最も高く、「進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した」が14.3%でした。

また、「ヤングケアラーという言葉を知ったことがあるか」の問いに小学生の67.9%、中学生の57.2%、高校生の46.1%が「聞いたことがない」と回答しており、周知が必要ということで、市では『ヤングケアラーって知ってる?』というカードを作成し、児童生徒や民生・児童委員やケアマネ等関係機関の人たちに配布したそうです。健康福祉局こども家庭部の職員の名刺の裏面にもカードの内容が印刷され、様々な場面でヤングケアラーについての周知・啓発に努めているとのこと。名刺大のカードには、ヤングケアラーの相談窓口が書かれており、QRコードも記され、LINE・電話・対面での相談を受け付けているそうです。気軽に相談できることを周知しており、現在、LINE登録は121件あるとのこと。

実態調査の結果を受け、市長がヤングケアラー支援を推進することとし、とにかく具体的な支援に取り組もうと進めてきたそうです。そこでまずは、子ども自身からの相談を直接受ける体制づくりをということで、ヤングケアラーコーディネーターの配置を実施し、現在は3人の相談員を配置しているそうです。これまでの相談は9件で、そのうち実際のヤングケアラーの相談は2件とのこと。恋愛の悩みや学校での友人関係や将来の夢についてなどの相談もあるようですが無下にせず、丁寧に回答しているとのこと。

相談員は家庭訪問や学校訪問も行い、市で行っている学習支援会場での面談も行っているとのこと。

ヤングケアラー支援事業として相談事業のほか、必要なサービスにつなげる間の支援として、配食サービスを実施しており、弁当配食型と食品配達型の2つを令和5年9月から実施しているそうです。またホームヘルプサービスも実施しており、いずれも無料で提供しているそうです。今年6月からは、ファミリーサポートセンター利用補助金を実施し、テスト期間や部活の試合の時など利用できるような設定にしているとのこと。

とにかく児童生徒が負担となっているケアを少しでも減らそうと具体的支援にいち早く取り組んだこと、なによりも子どもでも市役所に相談していいよと市役所の敷居を低くして、どんなことでも相談していい

	よと周知していることは素晴らしいと思いました。 配食サービスを利用した当事者からは、「配食サービスを利用することで、家族で将来について考えるようになった」「勉強する時間ができた」「お父さんが家事を手伝ってくれるようになった」との声のほか、「配食期間をもう少し伸ばしてほしい」との要望もあったそうです。 支援を行ったことで、家族間のきずなも強まり、児童生徒が将来への希望を見出していることが理解できました。今後の三鷹市のヤングケアラー支援の取組として、参考にしたいと思っています。 船橋市では条例制定はしていません。「条例は単なる理念なので、それよりは具体的支援が重要と考えた」という言葉が印象的でした。三鷹市でも見習いたいと思います。
--	---